

二世帯住宅にしてみたら家族が幸せになりました。

家族のきずなを大切にしましょう!



建築費の大幅な軽減!



おばあちゃんがいてくれると助かる!



おばあちゃんがいてくれると助かる!

まあ、息子の
すいてい時に
そっくり。
若いときに
戻ったみたいだわ。



- 若夫婦が共稼ぎというのは常識! だけど、子供だけでお留守番させるのはちょっとかわいそう…。そこで登場するのがおばあちゃん。よろこんで かわいい孫の子守りをしてくれるでしょう。お母さんだって親になら子供を安心して任せることができますね。
- おばあちゃんのほうだって、息子や娘によく似た孫たちを見ていると、若い頃に戻ったみたいで、**若返ること請け合い**。一挙両得です。
- またお年寄りとの同居で**感情の豊かな子が育つ**のは専門家も認めるところです。人生のはじまりと終わりを見つめて**命の大切さも考えてほしい**ものです。**めざせ! 少年犯罪追放**です。

建築費の大幅な軽減!

●大きな家になるほど、坪当たりの建築コストは下がります。また、何代も住み継ぐことができる高耐久型の家を建てれば、長い期間で考えた場合の大きな節約になります。100年間で1軒の家を建てるのと、3軒の家を建てるのでは、どちらが建築費がかかるかは明白でしょう? 当然、諸費用にしても3倍かかるのですから…。

●また、一定の要件をクリアすると、不動産取得税や固定資産税の軽減も二世帯住宅は、2軒分の家と同じだけ受けることができます。

●残念ながら日本はいま不況になやんでいます。息子夫婦で新しく土地を購入するよりも、親夫婦が土地を持っているのならそこを有効活用して、土地分の予算をうかし、できることならそのぶん建築費にまわす方がかしこくはないでしょうか?



家族のきずなを大切にしましょう!



- 人生80年の時代になりました。もし、今までどおり家の寿命が30年という短さであれば、一生の間に一体、何回家を建て替えなければならないのでしょうか? 生涯現役であればいいのですが、今は複雑な時代で、リストラがあったり、定年退職後に20年も寿命があったり、若い世代は就職難だったり…。できるだけ、高耐久の家を建設し、建っている家はできるだけ長く維持し、建物にかかる費用は家族で助け合って捻出する必要があるのではないのでしょうか?

毎日の経費が節約できます

●二世帯住宅にして、できるだけ一家だんらんの時間を持つようにすると、**電気代・水道代をはじめ、食事も節約**できます。それぞれのプライバシーは大事にしながら共同生活をする、忘れかけていた人間らしさを思い出せるかもしれません…。



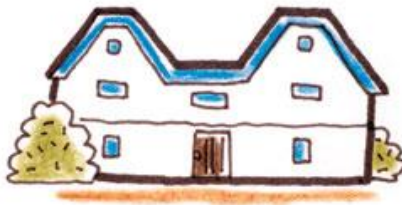
二世帯住宅にはいろんなタイプがあります



共用タイプ

玄関がひとつでプライベートスペースだけを分離したスタイル

ひとくち二世帯住宅といってもその形はさまざまです。よくよく話し合ってタイプを決めましょう。



融合タイプ

玄関が1つ、あるいは2つで内部の行き来ができるスタイル。これは一部共用タイプともいい、親世帯、子世帯を基本的に別々の世帯として考え、玄関や浴室など建物の一部分を二世帯で共用するスタイル。建物の形により、左右や上下で世帯を分けるなどさまざまに作れる。



完全分離タイプ

玄関からキッチン、浴室などそれぞれを世帯ごとに設け、しかも内部で行き来できないスタイル

家族の生活スタイルに合うタイプを選ぶことがお互いによくいくコツです。

間取りプランは家族の交流スタイルを考えてきめましょう。

- 和気あいあいとした交流を望む家族には共用スペースの多い間取りが、適している。
- 生活をすべて分けたうえで交流を実現したい家族には分離度の高いプランが適している。

共用スペースの多いプランでは、就寝や入浴、洗面など日常生活シーンの場合、相手世帯を通らずに共用ゾーンに行き来できることが大切です。

両世帯ともバリアフリー対応にしましょう。

バリアフリーとは…

床の段差をなくし、廊下や階段、浴室など要所に手すりをつけるなど、高齢者や障害者に対して動きやすくやさしい配慮をした家のことです。二世帯住宅では、親世帯と子世帯のあいだの行き来が考えられます。ふたつの世帯の関係もバリアフリーになるように、二世帯住宅の構造もバリアフリーとすべきです。高齢者にとっても、まだ足元のおぼつかない子供にとってもバリアフリーはやさしい家です。日常の家事をこなす主婦にとっても使いやすいことうけあい。

二世帯の間に溝をつくらないために注意すべきこと！！

世帯間にルールを確立すること

家族関係に応じたルールを確立して、肉親感情に流されないようにしましょう。各世帯専用のスペースの管理はそれぞれの世帯です、共用スペースがある場合は分担を決めるなど。一度決めたら担当者にまかせ、できないときはお互いに頼んだり頼まれたり協力しあうとよいでしょう。

生活費・光熱費はきっちり分ける

生活費・光熱費はどう負担するのかあらかじめ決めておくこと。融合タイプや完全分離タイプを建てる場合は水道やガス、電気などのメーターは別々にするのが望ましい。もちろん、電話も2回線分を確保しておくことと気兼ねがない。修理費や共通部分の家具設備の購入費などもよく話し合って分担すべき。